東京都立小石川中等教育学校
平成３１年度学校経営計画

東京都立小石川中等教育学校
校長　梅　原　章　司　決定

１　目指す学校

(1)　教育目標
「立志」「開拓」「創作」
〔自ら志を立て（立志）、自分が進む道を自ら切り拓き（開拓）、新しい文化を創り出す（創作）〕

(2)　目指す学校像
ア　６年間一貫して高い水準の教養教育を行い、生徒の自己実現を積極的に支援する学校
イ　様々な分野のパイオニアを目指し、幅広い教養と高い学力を育成する学校
ウ　行事や部活動、委員会活動等を通して生徒が互いに切磋琢磨し合い、豊かな人間力を育成する学校
エ　生徒の自己管理能力を高め、生徒自ら個性と能力を伸長する学校
オ　地域に信頼され、愛される学校

(3)　育てたい生徒像
ア　現状に満足せず、高い志をもち、自らの個性と能力を自ら開拓する生徒
イ　国際社会に生きる日本人として、幅広い教養と豊かな感性及び高い語学力を身に付けた生徒
ウ　自然科学など様々な場面・分野で活躍できるリーダーを目指す志の高い生徒

２　中期的目標と方策

(1)　目標
ア　「小石川教養主義」を推進し、生徒に幅広い教養や豊かな感性、高い学力を身に付けさせるとともに、次代を担うリーダーに必要な資質・能力を育成する。
イ　「理数教育」の柱である第３期ＳＳＨ事業を中心に、生徒の科学的思考力・判断力を継続的に高める取り組みを進める。
ウ　「国際理解教育」を通して、グローバルマインド及び日本人としてのアイデンティティを育成する。
エ　自己の将来に向け、高い志を立てることができる生徒を育成し、その実現に向け、最大限の支援を行う。

(2)　方策
ア　全生徒全教科科目履修や課題探究型学習「小石川フィロソフィー」を通して、生徒個々の資質・能力を最大限に伸長させる。
イ　第３期ＳＳＨ事業の研究開発課題「６年間を貫く『高度な理数系カリキュラム』と『課題研究』の計画・実施及びその評価・改善を行う『小石川グローバルサイエンスシステム』を通した科学的人材の育成」を全教職員で組織的に取り組んでいく。ＳＳＨ運営指導委員からの指導・助言などを参考に、第３期ＳＳＨ事業における課題を発見、精査し、第４期ＳＳＨ事業に向けた準備を進める。
ウ　広い教養や高い語学力といった、グローバル社会に生きる日本人として求められる能力の育成を目指した教育活動を推進する。
エ　教養教育に基づくキャリア教育を展開し、様々な分野において、高い志をもって果敢に挑戦していく生徒を育成する。生徒の進路希望を実現する進学指導体制を組織的に構築し、実践する。

３　今年度の取組目標と方策

(1)　教育活動の目標と方策

学校経営・組織体制

＜目標＞

(1)　教職員の経営参画意識を一層高め、ＯＪＴを通して経営組織体制を強化する。

(2)　小石川教養主義、理数教育、国際理解教育を全教職員で推進し、課題の解決及び連携の促進を図る。

＜方策＞

(1)　主幹教諭及び分掌主任が経営計画の進行管理を行い、定期的に進捗状況を報告する体制を推進する。

(2)　ＳＳＨ部の下に「ＳＳＨ-ＰＪ」を、国際部の下に「グローバル-ＰＪ」を設置し、それぞれの課題解決に当たるとともに、各分掌、学年、教科との連携を図る。

(3)　教科主任会議及び教科会を活用して、組織的な教科指導体制及び教科指導に関する人材育成を推進する。

(4)　職員室を学年活動の拠点となるように機能させ、サポート体制及び教育活動の充実を図る。

(5)　経営企画室職員各職層に応じた資質・能力の向上を図り、経営参画意識を高める。レベルの高い教育活動を推進するため、予算執行や施設整備等、経営企画室所掌事項において改善を図る。

(6)　教務部及び進路部が連携し、大学入学共通テスト及び新学習指導要領に対応した教育課程の編成に計画的に取り組む。

(7)　ＰＴＡ及び紫友同窓会と連携し、高い教育効果が期待できる取り組みを行う。

(8)　学校業務の効率化を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。

学習指導

＜目標＞

すべての教科・科目で基礎・基本の徹底を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力及び主体的に学習に取り組む態度を育成し、学力の向上を図る。

＜方策＞

(1)　習熟度別授業、少人数授業等を通して、基礎・基本を徹底し、様々な補講、講習等の充実を図る。

(2)　「小石川セミナー」を一層充実させる。

(3)　小石川教養主義に基づく本校独自の教育課程の特色を一層充実させる。

(4)　生徒に予習・復習の学習習慣を定着させ、自宅学習時間の確保を図る。

(5)　教育課程及び授業時間数を適正に管理する。

(6)　「小石川フィロソフィー」等における学校図書館や外部図書館の活用、「ビブリオバトル」の充実などを通して、より質の高い読書活動を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

生活指導

＜目標＞

生徒にソーシャルスキルを身につけさせる指導を推進する。

＜方策＞

(1)　時間厳守や身だしなみなど、最低限のルール、マナーの指導を徹底する。

(2)　日常の教育活動を通し、あいさつを励行するなど、社会性や自律性を育成する。

(3)　思いやりの心や奉仕の精神を育成し、信頼し合える人間関係を構築させる。

(4)　関係機関と連携し、交通安全、薬物乱用防止、携帯電話の危険性などをテーマにセーフティー教室を実施する。また、文京区青少年問題協議会と連携し、地域の情報を共有して安全教育を推進する。

(5)　体罰の未然防止に向けた教員研修を通して、生徒理解と信頼関係に基づく生活指導の徹底を図る。

(6)　いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。「学校サポートチーム」の助言・支援を活用する。

特別活動・部活動

＜目標＞

学校行事や部活動、委員会活動等への生徒の主体的な取り組みを通して、リーダーシップを発揮できる人間性と最後までやり抜く力を育む。

＜方策＞

(1) 学校行事や部活動、委員会活動等の企画・運営を通して、生徒の主体性や創造性を育てる。特に行事週間などにおける異年齢集団との交流を通して、生徒が自ら考え、判断し、集団の中で積極的に行動できるリーダーとしての素養を育成する。

(2) 学校行事を地域等に公開する中で、様々な人とのふれあいや交流を通して、豊かな人間性の育成を図る。

(3) 部活動に関する部費の適正管理を徹底する。

健康づくり

＜目標＞

心身ともに健康で、思いやりがあり、人間性豊かな生徒を育てる。

＜方策＞

(1) 学校保健計画に基づく保健指導を通して、生徒の心身の健康と体力の維持・向上を図る。

(2) 学習環境の整備と美化に努めるとともに、健康に関する生徒の自己管理能力を高める。

(3) スクールカウンセラー及び家庭と連携し、発達段階に応じた課題に学校全体で取り組む。

(4) 生命尊重の視点に立った生徒指導を行い、日常生活の中で生徒の変化を敏感に捉えるとともに、定期的に２者面談、３者面談を実施し、生徒の様子を適切に把握する。

(5) 学校給食運営委員会を通して前期課程給食の運営状況を把握するとともに、給食を通した食育を推進する。

(6) 体育授業にパラスポーツを取り入れることで、誰もがスポーツを楽しみ、自ら進んで体力の向上を図ろうとする態度を育てる。

進路指導

＜目標＞

キャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望実現に向け、学校全体で取り組む。

＜方策＞

(1) 生徒の進路希望実現に向け、進路指導部主体で進路指導計画を立案し、学年及び教科と連携して実施する。

(2) 前期課程では、健全な職業観育成に主眼を置き、「東京寺子屋」及び「職場体験」を実施する。

(3) 外部模試の分析結果を教科にフィードバックして、教科指導の改善を促す。

(4) 「進路の手引き」を活用して、生徒の自己実現を積極的に支援する。

(5) 各教科による模試の答案分析、大学入試問題の研究及び指導内容・指導方法の改善、年間指導計画や特別選択講座の内容の改善を推進し、教科指導力の向上を図る。

(6) シラバスに基づき、授業を実施し、評価、改善するマネジメントを定着させる。

(7) 長期休業日の有効活用を図るため、進学向け講習を企画・立案し、生徒への提示、調整等を行う。

(8) 同窓会と連携して、研究室訪問や分野別大学模擬講義を実施する。

(9) 自習室及びチューターの積極的活用を推進する。

募集・広報活動及び地域交流

＜目標＞

(1) 募集・広報活動を全教職員の連携・協力の下に行い、本校の求める応募者の増大を図る。

(2) 地域交流を推進し、社会参加に関する生徒の意識及び災害など非常時の対応能力の向上を図る。

＜方策＞

(1) ＨＰを通した教職員の情報発信能力を高め、本校の特色ある教育実践を積極的に発信する。

(2) 全教職員の連携・協力の下に、授業公開、学校説明会等を実施して、本校の特色ある教育実践を発信するとともに、本校の求める応募者の増大を図る。

(3)　小学生対象の体験授業「理科実験教室」や「部活動見学会」を実施する。
(4)　防災教育推進委員会の活用及び宿泊防災訓練の実施等を通して、非常時に対応できる資質・能力を高める。
(5)　「東京寺子屋」「職場体験」「社会参加（＝奉仕体験活動）」などの地域と連携した活動を通して、生徒の社会参加意識を高め、進んで社会に貢献しようとする態度を養う。

理数教育・ＳＳＨ

＜目標＞
(1)　第３期ＳＳＨ事業を適切に進めるとともに、第４期に向けた準備を進める。
(2)　理数教科科目に対する生徒の興味関心を高める。
＜方策＞
(1)　第３期ＳＳＨ事業当初計画に従い、様々な理数系カリキュラム等の開発・改善を進める。
(2)　大学との連携や接続の一層の強化を図る。
(3)　教員の指導力の向上を図る。
(4)　ＳＳＨ運営指導委員会から指導・助言を受け、組織的に事業を展開するとともに、第３期ＳＳＨ事業だけでは不十分と思われる課題についての精査を始める。
(5)　都教委指定「理数研究校」の取組をＳＳＨ事業と融合させ、計画的に進めていく。

国際理解教育

＜目標＞
国際社会に生きる日本人として求められる幅広い教養と豊かな感性及び高い英語力に基づくコミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、グローバルな視点でものごとを考えられる人材を育成する。
＜方策＞
(1)　「東京グローバル１０」事業を計画的に実行する。
(2)　授業を通して、４技能バランスのとれた英語力を習得させ、国内語学研修、海外語学研修、各種検定試験などを通して、段階的に英語の運用能力を高める。
(3)　シンガポールへの海外修学旅行（５年）を行い、現地の連携校で研究内容について発表を行う。
(4)　海外からの訪問を積極的に受け入れ、国際交流を推進する。
(5)　オリンピック・パラリンピック教育を通して、ボランティア・マインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等の資質や態度を育む。

(2)　重点目標と方策

学校経営・組織体制

＜目標＞
(1)　本校の特色ある教育活動「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を全教職員で推進する。
(2)　企画調整会議での積極的な協議、意見交換を通して、教員の方向性を揃える。
(3)　学校業務の効率化を図り、ライフワークバランスを推進する。
＜方策＞
(1)　理数教育については「ＳＳＨ-Ｐ Ｊ」、国際理解教育については「グローバル-Ｐ Ｊ」を中心に、各分掌、学年、教科と連携した上でそれぞれ推進する。
(2)　各種会議を効率的・効果的に運営する。
(3)　教職員それぞれに応じた 生活と仕事との両立・調和がとれるよう働き方を改善する。

＜数値目標＞
(1)　企画調整会議は４５分以内（前年度４７．０分）、職員会議は６０分以内（前年度６１．８分）を目途に終了できるよう計画的に運営する。

学力向上に向けた授業改善

＜目標＞

(1)　「授業第一主義」を実践する。

(2)　生徒の学力の状況及び推移を把握し、授業改善に反映させる。

(3)　授業力の向上に努める。

(4)　生徒の進路希望の実現に必要な学力の土台をつくる。

＜方策＞

(1)　基礎・基本の徹底を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力及び主体的に学習に取り組む態度を育てる授業づくりに努める。

(2)　「学力推移調査」及び模試の結果を活用した分析会を実施し、授業改善に反映させる。

(3)　校内外における授業見学や研究協議への参加、大学入試問題の分析等を通して、授業力の向上を図る。

(4)　５教科について、生徒の進路希望の実現から逆算して指導計画を見直し、大学入試センター試験の得点率８０％以上を目指す授業を実施する。

＜数値目標＞

(1)　指名制の授業研究、指導教諭による模範授業及び予備校での教員対象大学入試問題指導力向上セミナーに５６名以上を派遣する。（前年度５８名）

(2)　大学入試センター試験において、得点率８０％以上の人数を、各教科・科目受験人数の６０％以上にする。（前年度５６．６％）

良い習慣の形成

＜目標＞

(1)　生徒の人権を尊重し、生徒理解と信頼関係に基づく生活指導を行う。

(2)　生徒に予習・復習を前提として授業に臨む習慣を付けさせる。

(3)　学習に適した校内環境を整備し、時間を有効活用して学習する習慣を身に付けさせる。

(4)　基本的な生活習慣の形成を支援する。

(5)　各種検定等へのチャレンジを通して学習意欲を喚起させる。

＜方策＞

(1)　生徒の人権を尊重するとともに、「生活のきまり・確認事項(前期課程)」及び「生活のきまり及び留意点(後期課程)」に基づく生活指導を全教職員の共通理解の下に行う。

(2)　前期課程生徒に「１日平均２時間以上」の家庭学習時間を目標に学習計画を立てさせ、実行を支援する。

(3)　自習室や学校図書館の利用を推進する。

(4)　皆勤及び精勤（＝欠席・遅刻・早退のいずれかが１回）の生徒に対して表彰を行う。

(5)　英語検定、ＧＴＥＣ、数学検定、漢字検定等へのチャレンジを通して学習意欲を喚起させる。

＜数値目標＞

(1)　前期課程生徒の平日家庭学習時間を１日平均２時間以上にする。（前年度４月調査８６分、１０月調査６８分）

(2)　学校評価アンケートの項目「私は、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的な評価を９５％以上にする。（前年度９４．７％）

(3)　学校図書館における前期生１人あたりの図書貸出数を年間２０冊以上にする。（前年度１７．０冊）

(4)　年間皆勤及び年間精勤の生徒の割合を全体で３５％以上にする。（前年度３８．４％：前期課程５３．１％、後期課程２３．３％）

進路指導

＜目標＞

各学年に応じた進路指導体制を充実させる。

＜方策＞

(1)　６年生対象

ア　進路希望調査、進路面談、大学別解説会、国公立大学出願指導を実施する。

イ　大学入試センター試験対策講座、私立大学入試対策講座、国公立大学二次試験対策講座、大学入試センター試験実戦模試、難関国立大学模試添削指導を実施する。

ウ　週休日等も含めて自習室を開放し、生徒が自ら学習する環境を整える。

(2)　４年生・５年生対象

ア　進路希望調査、研究室訪問、大学模擬講義を実施して進路に対する意識の高揚を図るとともに、模試やリアルセンター模試を通して学力の推移を把握し、面談等による個別指導に活用する。

(3)　前期課程生徒対象

ア　職業調べ、職業講話、職場体験等を通して職業観を育成し、「なりたい自分」の目標を設定させ、進路決定への道筋をつくる指導を行う。

＜数値目標＞

(1)　大学入試センター試験において、
　５教科７科目型の受験者を１１０名（在籍者の７０％）以上にする。（前年度１２０名、７６．９％）
　５教科７科目型の受験者のうち、得点率８０％以上の者を６０％以上にする。（前年度６１．７％）

(2)　国公立大学現役合格者を５５名以上にする。（前年度７２名）
　うち難関国立４大学及び国公立大学医学部医学科現役合格者を２５名以上にする。（前年度３７名）

募集・広報活動及び地域交流

＜目標＞

(1)　募集・広報活動を一層推進し、本校の求める応募者の増大を図る。

(2)　全教職員の連携・協力の下に募集・広報活動を推進する。

(3)　本校の特色を表す体験授業を実施する。

(4)　災害などの非常時に対応できる資質・能力を高める。

＜方策＞

(1)　ホームページを通した教職員の情報発信能力を高めるとともに、更新頻度を高め、内容を充実させて、本校の特色ある教育実践を積極的に発信する。

(2)　全教職員の連携・協力の下、授業公開、学校説明会等を実施し、本校の特色ある教育実践を積極的に発信するとともに、本校の求める応募者の増大を図る。

(3)　小学生対象の体験授業「理科実験教室」や「部活動見学会」を実施する。

(4)　防災教育推進委員会を活用して、警察や消防、町会等から避難訓練や宿泊防災訓練に関する助言を受けるとともに、それらの改善・充実を図る。

＜数値目標＞

(1)　授業公開、学校説明会、体験授業等の合計来校者数を９０００名以上にする。（前年度８８４５名）

(2)　一般枠募集と特別枠募集の合計応募者数を９６０名以上にする。（前年度１０３６名）

ＳＳＨ

＜目標＞

課題発見力、創造的思考力、継続的実践力を高め、国際社会でリーダーとして活躍できる科学的人材を育成する教育の研究開発を行う。

＜方策＞

(1)　「小石川フィロソフィーⅥ」について、今年度の学習を計画的に実施するとともに、本格的に実施する次年度からの学習についての計画を早期に進める。

(2)　「小石川セミナー」及び「サイエンス・カフェ」を一層充実させる。

(3)　「小石川フィロソフィー」など様々な探究活動に取り組ませるとともに、研究発表会等で発表を行わせる。その際、英語による論文作成や研究発表（ポスターセッションを含む）にも取り組ませる。

(4)　「小石川フィロソフィー」の継続研究を支援するオープンラボの充実を図るとともに、研究者や大学院生などによる課題研究メンターシステムを開発する。

(5)　ウェールズの大学と連携し、「海外サイエンスプログラム」を実施する。「グローバル人材ワークショップ」の参加や国際科学コンテスト・国際科学オリンピック等に挑戦する生徒の取り組みを支援し、科学的思考力をもったグローバルリーダーを育成する。

(6)　大学との連携を強化し、「生命科学実験講習会」及び「グローバルサイエンスキャンパス」等への生徒参加支援を行う。

(7)　小石川フィロソフィー担当者会議やカリキュラムマネジメントのためのワークショップ型校内研修を活用して、教員の指導力向上を図る。

＜数値目標＞

(1)　前期課程１学年及び２学年の理科において、実験・観察を扱う授業を７割以上にする。（前年度７割）

(2)　「オープン・ラボ」や「小石川フィロソフィー」等における英語による論文の作成件数を４０件以上にする。（前年度３１件）

(3)　英語による研究発表を４０件以上行う。（前年度５９件）

(4)　「サイエンス･カフェ」を１５回以上実施する。（前年度１９回）

(5)　海外の理数系教育重点校における「理数系授業参加プログラム」に２０名以上応募させる。（前年度１８名）

(6)　国際科学オリンピック予選に１５０名以上挑戦させる。（前年度１８１名）

国際理解教育の充実

＜目標＞

(1)　国内語学研修、海外語学研修及び海外修学旅行に共通な目標を設定して、教育効果を高める。

(2)　国際交流を推進する。

(3)　海外の大学や高校への留学に関わる情報提供及び進路指導を行う。

(4)　本校の概要を英語で広報する。

(5)　国際的な課題について、英語で思考、発表できる力を身につけさせる。

＜方策＞

(1)　コミュニケーション・ツールとしての英語力を高めるという共通の目標の実現に向けて、国際部が国内語学研修、海外語学研修及び海外修学旅行の企画・立案を一括して行う。

(2)　海外からの生徒や教員を積極的に受け入れる。

(3)　国際部を中心に、外部関係機関をはじめ、各分掌、学年、教科等と連携して、留学ガイダンスを実施する。

(4)　英語版の学校案内を国際交流や海外語学研修、海外修学旅行などの際に配布する。

(5)　英語ディベートコンテスト等へ、積極的に参加する。

＜数値目標＞

(1)　３学年末までに英検準２級以上を取得する生徒の割合を９５％以上にする。（前年度９５．０％）

(2)　４学年末までに英検２級以上を取得する生徒の割合を７５％以上にする。　（前年度８９．０％）